

# 80歳以上高齢者におけるBRT治療

BRT for Elderly Patients Aged Over 80 Years Old

恵佑会札幌病院副院長 (兼 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任部長)

渡邊 昭仁

恵佑会札幌病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長

谷口 雅信

恵佑会札幌病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科

木村 有貴

## Summary

日本は急速に高齢化社会となっている。頭頸部癌治療においても例外ではなく、高齢者に対する治療が必要となってくる。セツキシマブ併用放射線療法 (BRT) は、放射線単独療法よりも高い治療効果が期待される反面、その粘膜炎、皮膚炎、間質性肺炎などのマネージメントが臨床問題となっている。80歳を超える高齢者は循環器や呼吸器などの併存疾患も多く、BRTに際してはより注意が必要である。今回、当院でBRTを行った症例を後ろ向きに検討した結果、80歳以上の症例が半数を占めていた。高齢者に対しては、入院による積極的な栄養管理介入や支持療法を行うことで治療を完遂することが可能であった。今後増加することが予測される高齢者の治療の際にBRTが選択肢になりうるのか、症例蓄積による結果が待たれる。

**Key words** 高齢者, bioradiotherapy, 80歳以上高齢者, 栄養介入, 支持療法

## はじめに

セツキシマブ併用放射線療法 (bioradiotherapy ; BRT) は、放射線単独療法に比べて治療効果が高いことがBonner試験<sup>1)</sup>で明らかになり、シスプラチン併用放射線療法 (CRT) とともに頭頸部癌治療の重要な選択肢の1つになりつつある。高容量シスプラチンは腎機能障害のみならず全身への負担が大きいことが知られており、高齢者には使用がためらわれることがある<sup>2)</sup>。セツキシマブは高容量シスプラチンに比べて高齢者に使用し

やすいと考えられ、保険収載後当初は高齢者頭頸部癌に対するBRTによる治療効果が期待された。その後、わが国の多くの施設で使用されると、発生頻度は少ないものの、BRT時に併発した間質性肺炎の治療に難渋することがわかってきた。この間質性肺炎は時として致死的になることも報告され、肺疾患の合併が多い高齢者に対するBRTは注意が必要であることが臨床明らかになってきた<sup>3)</sup>。今回、当院におけるBRT症例を後ろ向きに検討した。特に80歳以上高齢者に対するBRTに注目した。